

共同リリース

2019年3月20日
全日本空輸株式会社
日本電気株式会社

ANA 客室乗務員向け機内訓練に NEC 開発の VR を活用 ～機内での緊急事態を体感する訓練を仮想空間で実現～

全日本空輸株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 平子 裕志、以下 ANA)は、日本電気株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 執行役員社長 兼 CEO:新野 隆、以下 NEC)が開発したバーチャルリアリティ(以下 VR)を活用した客室乗務員訓練を開始しました。現実で再現困難なシーンを VR にて実現する「法人 VR ソリューション」^(※1)を活用したもので、航空業界の訓練用途で CG を用いた VR の本格導入は、世界初となります。^(※2)



VR を活用した訓練の様子



VR のイメージ(機内設備/ギャラリー)

《CG 動画は以下より閲覧可能です》

<https://bcove.video/2Ff8PAR>

2018 年度に採用した約 800 人の新入客室乗務員を対象として、機内の安全性確保に向けた保安訓練に VR を活用した訓練を導入しました。具体的には、現実で再現困難な機内での緊急事態(火災、急減圧)や機内設備の安全確認作業を VR で再現します。本訓練の導入により、万が一の緊急事態の発生時においても、これまで以上に迅速かつ適切に対処できる客室乗務員の養成が可能となるとともに、反復実習が可能となり、業務手順の定着が高まるなどの効果が現れ始めています。

今回の導入は NEC の「法人 VR ソリューション」を活用することにより、客室訓練における課題を解決するだけでなく、仮想空間を活用する次世代の業務スタイル「Virtual Work Place」^(※3)を見据えたものとなっています。

また、2019 年 4 月からは一体型 VR デバイス「Lenovo Mirage Solo」^(※4)の採用を予定しており、前後左右の移動や屈む動作も VR 空間に反映させることが可能となり、客室全体の設備の安全確認作業など、きめ細やかな機内訓練が可能となります。

以上

(※1)「法人 VR ソリューション」

ユーザーズに合わせて VR 空間を個別に構築し、ヘッドマウントディスプレイなどと組み合わせて提供。危険な作業・研修などのトレーニング用途、ユーザビリティ検証などのシミュレーション用途、遠隔会議などのコミュニケーション用途での活用が可能。参考 URL: <https://jpn.nec.com/nvrs/index.html>

(※2) NEC 調べ

(※3)「Virtual Work Place」

VR 空間が業務を行う場所の新たな選択肢になるという概念。VR 空間を活用することで時間や場所の制約がなくなり、現実を超える付加価値、現実を置換えるコスト削減、AI と人が協働する新たなワークスタイル等の実現を目指す。

(※4)「Lenovo Mirage Solo」

世界初のスタンドアロン型でかつ Daydream 対応、WorldSense™搭載の VR ヘッドセット。空間内の動きを把握する Google™のテクノロジー WorldSense™により、上下、前後、左右の動きを VR 空間に反映できる。

【お問合せ先】

(VR を活用した「法人 VR ソリューション」、VR 機器に関するお問合せ)

NEC コーポレートコミュニケーション部 高木 電話:(03)3798-6511 E-Mail: press@news.jp.nec.com

(ANA の客室訓練に関するお問合せ)

ANA 広報部 03-6735-1111